

令和7年第2回定例会の報告です。

ぜひ一読ください。

子どもの食の安全と環境問題を考えて、オーガニック給食の推進を訴えています。年間食事の6分の1を占める給食で、地元産の野菜を提供することで、子どもたちの健康増進と地域農業の活性化を同時に目指します。

高齢者就労について

地域経済を循環させるためにも、高齢者の方々が元気で働ける社会の仕組みを作ることが大事だと考えます。長年の経験を活かせる雇用機会の創出とマッチング支援は、高齢者の生きがいと地域消費の促進に繋がるでしょう。例えば地域企業との連携や、有償ボランティアなど。これからの高齢化社会において必要な仕組みであり、官民連携で進めることができると考えます。

孤立・孤独のない社会を目指して

コロナ禍を経て、人と人との繋がり方が大きく変化し、世代を問わず孤立・孤独の問題が深刻化しています。孤立・孤独は生きる意欲を喪失させ、命の危険すら伴います。これを防ぐため、地域での繋がりを強化することが重要です。集える場づくりと、市民向けの「ゲートキーパー」(＝悩んでいる人に気づき、声をかけてあげられる人)研修の実施が不可欠です。人と人の繋がりは災害時にも大きな力となります。地域伝統行事を活かした交流にも力を入れていきます。

地域猫活動にも力を入れています



みなさんの声をしっかり行政に届けます！

葛城市議会議員

しばた
柴田 みつの

議会報告 Vol.6 討議資料

あなたと、ともに

ごあいさつ

こんにちは！柴田みつのです。

平素はご支援いただき、ありがとうございます。

6月13日から26日まで開催された令和7年第2回定例会（6月議会）において、私は一般質問で近年、国が取り組みを強化している“ヤングケアラー”を取り上げました（詳細次ページ）。

4年間の活動と私の思いも掲載しておりますが、書ききれない思いと将来のビジョンは次号に続きます。

ぜひお読みください。



☎ 080-8521-0463

✉ mitsuno05@gmail.com

LINE



Facebook



Instagram

メルボルン（オーストラリア）23年在住
通訳案内士（国家資格）

フォローよろしく
お願いします😊



HP

発行／柴田みつの後援会 奈良県葛城市新庄62番地 TEL&FAX 0745-69-2943

みつのとおしゃべり！



どこでも座談会

どこでも出張座談会します！
お気軽にお申込みください。

おひとりからでもオッケーです

お申込み・お問い合わせ

LINE・インスタDM、メッセージ、お電話どうぞ！
（裏表紙に掲載しています）

葛城市をよりよくするために

私たちと一緒に活動しませんか？

- ・地域活性化活動
- ・勉強会など

みんなの思いを形にしましょう！

柴田みつの一般質問

一般質問とは、議員が市政運営全般にわたって、執行部に質問、提案するものです。日頃の調査や活動を通して、葛城市の課題とと思っていることを一般質問として葛城市に投げかけることができる貴重な機会と捉えています。



一般質問の動画はこちらから

ヤングケアラー支援と若者の居場所づくりについて

昨年、子ども・若者育成支援推進法が改正され、そこに初めてヤングケアラーが明記されました。また奈良県も今年度ヤングケアラー支援に2億6千7百万円の予算をつけました。

ヤングケアラーとは、本来大人が担うべき家事や介護を行っている子どもや若者のことです。家族のあり方の変化や子どもの権利の尊重する社会的な動きもあり、ヤングケアラーの存在が注目されています。

では葛城市にはヤングケアラーと認識される児童・生徒はいるのか？市の回答は**NO**です。全国的に小学校6年生で15人にひとり、中学2年生で17人にひとりいるといわれているヤングケアラーが葛城市にはいないというのは少し信じ難い結果です。個人的にはいないのではなく、認識されていないのではないかと考えています。というのも、ヤングケアラー自身が家事や介護をするのは当たり前と考えていて、自分が当事者だと自覚していない可能性があること、家族について話すことをためらってる、または誰に話していいかわからない、話しても現状は変わらないとあきらめてしまっているなど様々な理由で表面化しにくい現状があります。

もしヤングケアラーの疑いがある児童・生徒がいた場合、葛城市ではどのように支援がされるのか、簡単に説明します。

もちろん学校も関わりますが、主にこども・若者サポートセンターが直接相談に応じます。アセスメント（情報収集や分析）を行い、支援メニューを作成して、本人や保護者の意向を基に必要な支援やサービスにつなげます。つないだ後もこども・若者サポートセンターで見守りを続けます。これはほんの一例で、状況などにより対応は変わってきます。

私はヤングケアラーだった若者たちに話を聞く機会がありました。どんな支援がほしい？という問いかけに、「居場所がほしい」という答えが返ってきました。

何度か一般質問で若者の居場所について取り上げましたが、現在葛城市には若者を対象にした施策はありません。

若者の市外流出を避け、また離れたとしても戻ってきたいと思える葛城市にするためにも、若者を支援する施策が必要ではないかと考えます。そして若者支援をしたい人たちをしっかりと行政が支援するべきと考えます。

みつの視点

複雑化する社会課題に対し、人と人とのつながりと寄り添う心を大切にする社会こそが求められています。行政は関係機関、民間団体、そして市民の皆様と連携し、安心して暮らせる温かいまちづくりに尽力すべきです。その実現に向けて、私も行動します！

議員としての4年間の歩み

オーストラリアでの23年間の生活を経て、大学の非常勤講師として教壇に立つ中で、学生の日本文化への理解の低さに衝撃を受けました。海外で堂々と日本のことを英語で語れる子どもたちを育みたいという思いから、葛城市で英語のフリースクールを開設。その活動を通して、葛城市の子どもたちにもっと貢献したいという強い思いを抱き、2021年に市議会議員に立候補しました。

子どもたちへの思い

子どもたちは日本の未来です。葛城市の子どもたちが将来、世界で活躍できるよう、英語力を高める教育を充実させたいと考えています。単なる学習だけでなく、実践的な会話力を養う機会を豊富に提供し、自分の言葉で故郷や日本、そして自身を語れるように支援します。

議員になって、葛城市立新庄小学校に、私が暮らしていたメルボルンのムーランビーナ小学校を紹介し、現在姉妹校になっています。

他の小・中学校もオーストラリアの学校とつなげることができればと考えています。

つづく